

熱海市は、将来都市像に「住むひとが誇りを訪れるひとに感動を誰もが輝く楽園都市 熱海」を掲げ、「住んでみたい」「訪れてみたい」、そしてそんな街に「投資をしたい」という「選択される街」を目指して、シティプロモーション活動に取り組んでいます。

『熱海NEWS LETTER』は、その活動の一環として、熱海の旬な情報をお伝えするために、定期的に発行しています。

右の写真は、徳川将軍家へ献湯する「湯汲道中」を再現した湯汲パレードの様子。



LINE UP

ラインナップ

S 【特集】寒い冬は、熱海温泉を深く知る、湯をめぐる・・・P2・3

熱海温泉の起源は奈良時代からと歴史も古く、また徳川幕府にも愛された温泉地でもあります。この冬は熱海温泉の歴史や実力を知り、湯をめぐってみてはいかがでしょうか。

☆熱海駅舎・駅ビル・駅前広場が生まれ変わります

E 【イベント】12月～3月の主なイベントをご紹介します・・・P4

◇日本一早咲きの梅と桜 “熱海梅園梅まつり&あたま桜 糸川桜まつり”

◇冬の澄んだ空気で見ると花火 “熱海海上花火大会”

◇二大国宝同時公開！尾形光琳 300年忌記念特別展

“燕子花と紅白梅 光琳アート 光琳と現代美術”

A 【熱海のココスキ!!】「老舗旅館の17代目が熱海温泉の魅力を語る」・・・P5

1806年創業の老舗旅館17代目 内田宗一郎さんに、貴重な経歴から見ることのできる熱海温泉の魅力と熱海のココスキ!!について伺いました。



熱海の歴史は温泉と共にありと言う人もいるほど、熱海といえば、まず『温泉』を連想される人も多いと思います。寒くなるこの季節、もっと熱海温泉の魅力を知っていただき、「熱海温泉」で身も心も温めてください。

熱海温泉の由来と歴史

熱海温泉の起源は古く、奈良時代、箱根権現の万巻上人が海中に沸く熱湯によって魚類が焼け死に甚大な被害を被っていた漁民たちを助けようと薬師如来に祈願し、泉脈を海中から山里へ移したという話が「熱海温泉図彙」に記されています。

また、「熱海」と書いて、「あたみ」と読むこの地名の由来は、海中より温泉が凄まじく沸き上がり、海水がごとごとく熱湯となったため、「あつうみが崎」と呼ばれ、それが変じて「あたみ」と称されるようになったとも言われています。

江戸時代には、初代将軍徳川家康が慶長9年に二人の息子を連れて御入湯され、熱海温泉の効能を大変気に入られたことから、多くの大名が湯治に訪れました。四代将軍徳川家綱の時代には大湯の温泉を檜の湯樽に汲み、それを頑強な男数人が担ぎ、武士の警護のもと「御本丸御用」の朱色の日の丸旗をたてて、昼夜兼行で15時間走り、江戸城へ献上されたのが「湯汲み道中」の始まりと言われています。熱海温泉は高温であったため、熱い湯が江戸城に着く頃にはちょうどよい湯加減になったとも言われています。

現在でも、この「湯汲み道中」の様子は、熱海温泉の守り神として少彦名命(すくなひこなのみこと)が祀られている「湯前神社」の秋季例大祭において、パレードとして再現されています。

貴重な資料「温泉番付」と温泉誌の編さん

現在でもPR誌などで温泉地に関するランキングを見かけることがありますが、江戸時代から明治末期までには「温泉番付」として各地で出版されていました。民間で作成したものですが、各温泉の適応症などが書かれていることから、温泉の選択順位を決めるうえでは、重要な要素であったことが伺えます。この温泉番付で最も注目すべきは、「伊豆熱海の湯」(熱海温泉)は東西の湯に分けられることなく行司であるということです。つまりは、「熱海温泉」は順位に分けられることなく、別格であったということをうかがい知ることができます。

この温泉番付をはじめとする温泉にまつわる貴重な資料が熱海市立図書館には多数存在します。また、温泉にまつわる文化なども現存しています。これらを後世に残すべく、平成29年の市制施行80周年記念事業として、「熱海温泉誌」の編さんがスタートしました。



「熱海温泉図彙」(熱海市立図書館蔵)



「湯汲み道中の様子」(古屋旅館蔵)



江戸時代「温泉番付」(熱海市立図書館蔵)

熱海温泉の実力

熱海温泉は総湧出量約 17,733ℓ/分、42℃以上の高温泉が91.3%を占め、源泉数は535井を数えるという、湯量も豊富な全国有数の高温泉地域です。また、熱海の温泉は泉質の傾向や景観もそれぞれ異なる「四大温泉郷」が存在します。

熱海温泉は明治18年に日本で初めて温泉療養センター（嶮瀧館）が設置された温泉地であり、明治時代には湯治場として、大正時代以降には別荘開発も盛んとなったことから保養地として愛され現在に続く温泉地でもあります。それぞれの温泉効果を堪能すべく、四大温泉郷をめぐってみませんか。



市の指定文化財「大湯間欠泉」

◆熱海の四大温泉郷

伊豆湯河原温泉（泉地区）…神奈川県との県境にある温泉地で、山裾深く入った山峡にも落ち着いた旅館が立ち並び、比較的単純泉が多いが、塩化物・硫酸塩泉、硫酸塩泉も揃っている贅沢な温泉地。

伊豆山温泉…源頼朝に縁のあるこの地は、源泉「走り湯」を中心に発展してきた歴史をもつ。昔は海岸の洞窟から温泉が川のごとく湧き走り出していたとも言われている。硫酸塩泉が多いのも特色。熱海では珍しい弱酸性の石膏泉や、現在は利用していないが含鉄泉もある。

熱海温泉…海岸線も整備され、近代的な温泉地として賑わっている。湯量が豊富で、肌に良い弱アルカリ泉が多い。美肌効果に優れたメタけい酸含有率が高い温泉が多いのも特長。

南熱海温泉（多賀・網代地区）…江戸時代港として栄えた網代を中心に、遠浅の海が続く海岸沿いの温泉郷。熱海のなかでも温泉成分が濃いのが特長。アルカリ性単純温泉もある。

熱海ならではの“市営温泉”？

熱海市では全国でも珍しく市営で温泉事業を運営しています。発足当初は源泉の乱開発による深刻な被害を解消し、効率よく旅館へ温泉を供給することを目的にしていたのですが、現在では旅館、保養所だけでなく、一般の家庭へも供給しています。熱海には水道と同様に、蛇口をひねれば温泉が出るご家庭があるのです。熱海温泉の源泉は平均約63℃と高温であるため、早い時間に浴槽にためて、温泉の成分を薄めないように入浴します。これもご家庭で温泉に入る熱海市民ならではの知恵なのかもしれません。

熱海駅・駅舎・駅前広場が生まれ変わります

現在、平成26年度中の完成を目指し、熱海駅前広場を改修しています（施工者：熱海市）。駅改札入り口付近には、温泉地らしく「足湯」やその湯が溢れているイメージを醸し出す「湯鏡」が完成します。

また、1925年（大正14年）に開業した熱海駅の建て替え工事が、いよいよ平成26年秋から始まりました（事業主：JR東日本・湘南ステーションビル㈱）。駅舎は平成27年秋、駅ビルは平成28年秋の開業を目指し、観光地の玄関口にふさわしい明るく開放感のある駅舎・駅ビルに生まれ変わろうとしています。

観光客の皆さんや市民の皆さんにとって、利便性がよく、賑わいのある駅を目指しますので、ご期待ください。



建設が進む「湯鏡」



熱海駅舎・駅ビル完成イメージ（JR東日本横浜支社提供）

見

常春熱海を満喫!!
早咲きの梅「熱海梅園梅まつり」

1月10日(土)～3月8日(日) 8:30～16:00



JR来宮駅から徒歩5分という市街地にある熱海梅園は、11月14日に既に1輪の梅の開花を確認。早咲・中咲・遅咲の58種473本の梅の木が植えられているため、梅まつり期間を通して楽しんでいただけます。また、園内には足湯(10:00～16:00)も併設されており、温泉を楽しみながら梅を觀賞するのもおつなものです。

入場料：市民・宿泊者 100円、一般 300円(団体割引有)
中学生以下無料

- 梅園⇄糸川 無料シャトルタクシー
「熱海梅園梅まつり」と「あたみ桜糸川桜まつり」を結びます。
1/25(日)・31(土)・2/1(日)・7(土)・8(日)・11(水祝)・14(土)・15(日) ※時間は別途ご確認ください。
- 梅園⇄市営東駐車場 無料シャトルバス
「熱海梅園梅まつり」と「サンビーチ」「市街地」を結びます。
2/1(土)～3/1(日)までの土曜日・日曜日・祝日
※時間は別途ご確認ください。

◆お問合せ 熱海市観光協会 TEL 0557-85-2222

見

早咲き日本一!!
「あたみ桜 糸川桜まつり」

1月24日(土)～2月15日(日) 10:00～15:00

常春熱海を彩るのは、梅だけでなく、「あたみ桜」。熱海市街地にある糸川遊歩道沿いでは、「あたみ桜 糸川桜まつり」が開催されます。期間中の土・日・祝日には、桜茶の無料サービスが行われるほか、大道芸などの各種イベントも開催されます。

さらに、期間中の17:00～23:00には、あたみ桜がライトアップされるので、穏やかな光に照らされた満開のあたみ桜も必見です。



◆お問合せ 熱海市観光協会 TEL 0557-85-2222

見

冬の澄んだ空気で見える花火
「熱海海上花火大会」

12月7日(日)・14日(日)・23日(火祝)

春夏秋冬、花火が楽しめる熱海。この冬も熱海湾で海上花火大会が開催されます。澄み切った空気の中で、体を寄せ合って見る花火もオススメです。

時間：20:20～20:45



◆お問合せ 熱海温泉ホテル旅館協同組合 TEL 0557-81-5141

見

二大国宝同時公開! 尾形光琳 300年忌記念特別展
「燕子花と紅白梅 光琳アート 光琳と現代美術」

2月4日(水)～3月3日(火)

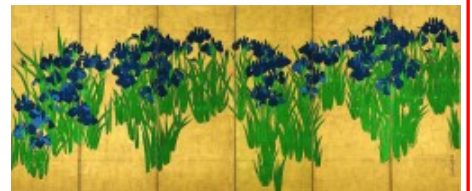
琳派の大成者・尾形光琳の300年忌にあたり、光琳の二大傑作である国宝「燕子花図屏風」と国宝「紅白梅図屏風」を同時に公開。また、光琳の名品ならびに、菱田春草・下村観山・加山又造らの、光琳の芸術性を取り入れた作品や、村上隆・杉本博司・平松礼二・室瀬和美(人間国宝)などの現代美術の作品を展覧し、光琳アートの系譜を概観します。

※開館日・入場料要確認

(右図)

国宝
「燕子花図屏風」
(右隻)

尾形光琳筆
根津美術館蔵



(左図)
国宝
「紅白梅屏風図」
尾形光琳筆
MOA美術館蔵

◆お問合せ MOA美術館 TEL 0557-84-2511

まだまだ、ある。イベントカレンダー

- | | |
|-----|---|
| 12月 | 13・14日 網代ひものまつり (大縄公園)
7・14・21日 アト&ミュージック (MOA美術館)
20～23日 長浜みかんフェア (長浜海浜公園)
12/31～1/3 くつろぎ空間「正月かざり」
(起雲閣) |
| 1月 | 1・2日 華の舞 特別公演 (熱海芸妓見番)
18日 海辺のあたみマルシェ (熱海銀座通り)
1/28～6/15 第33回ヴェネツィアヴィエンナレ展
大賞作品展(池田万寿夫・佐藤陽子 創作の家) |
| 2月 | 22日 魚祭り (熱海魚市場) |
| 3月 | 7～9日 多賀わかめ祭り (長浜海浜公園)
下旬～ 熱海城桜まつり (熱海城) |

◆お問合せ 熱海市観光協会 TEL 0557-85-2222



うちだ そういちろう
内田 宗一郎 さん

1806年創業 古屋旅館 専務取締役

ー 熱海温泉の歴史は古く、奈良時代が起源といわれています。その歴史の中で、江戸時代に創業し現在まで旅館業を営んでいる古屋旅館の17代目内田宗一郎さんにお話を伺いました。

熱海温泉の古地図にも所在の表記のある「古屋旅館」の歴史と、少し変わった経歴をお持ちだというご自身の経歴について教えてください。

内田 家系図は500年前の室町時代から残っており、その頃から熱海にいたという記録があります。江戸幕府はそれまで許可していなかった平民の旅行を1805年に許可したそうです。古屋旅館はその翌年の1806年に創業しました。

私は長男でしたので、子どもの頃から旅館を継ぐことは意識していましたが、その前に一度東京の真ん中で働きた

いという思いから、大学卒業後、修行のつもりで都市銀行に5年半勤めました。旅館業は設備投資が先行するので、当然長期の融資を受けることになりますが、銀行業は資金を貸す立場です。そういった逆サイドの目線で働けたことは、現在でも大きな資産となっています。

ー 温泉地としての熱海の魅力は、どのようなところにあるとお考えですか。

内田 第一に新幹線のひかり号で東京から35分で行くことができるという利便性。第二に9割の国民が知っているという抜群の知名度。そして、第三に敷居の低さだと思います。熱海温泉は湯量や源泉数も豊富ですし、宿泊料金もバリエーションがあるので、顧客の趣味が多種多様化する現在、さまざまなニーズにお応えできるパーティ的な存在だと思います。そういったことから、最近では熱海温泉が若い人に支持されているのを感じます。また、一方で今後さらに高齢化が進展し首都圏に人口が集中していく中で、高齢者にとって移動距離が短く来やすい熱海温泉はもっと有利になってくるのではないかと思います。

熱海が長く愛される温泉地となるよう、奇をてらわずに、案内表示がしっかりされているとか、おいしいものが食べられるとか、部屋がきれいにされているとか、地道ではあるけれども高くオリティを保つというのが、重要なかもしれません。

ー 熱海で生まれで外部の視点もある内田さんにとって、“熱海のココスキ!!” などところはありますか。

内田 空気や水がおいしいのは当たり前なのですが、適度に都会的な温泉地であることですね。海岸線の風景にも代表されるとおり、都会的な整備されたきれいさがある温泉地は珍しく、これは熱海温泉の独自性だと思います。平日ランチをするようなところが少ないのはたまにキズですが、それ以外は本当によいところです。

旭川出身の妻は「糸川沿いの風景がすごく好き」だと言います。地元出身の私は見慣れた風景なのですが、まだ気づいてないお客様にとっての熱海の魅力を今後も磨き、認知されるような情報戦略が必要であると感じています。



創業1806年の古屋旅館の門構え



熱海温泉を江戸幕府に運ぶ際の「湯汲み」の様子(古屋旅館蔵)